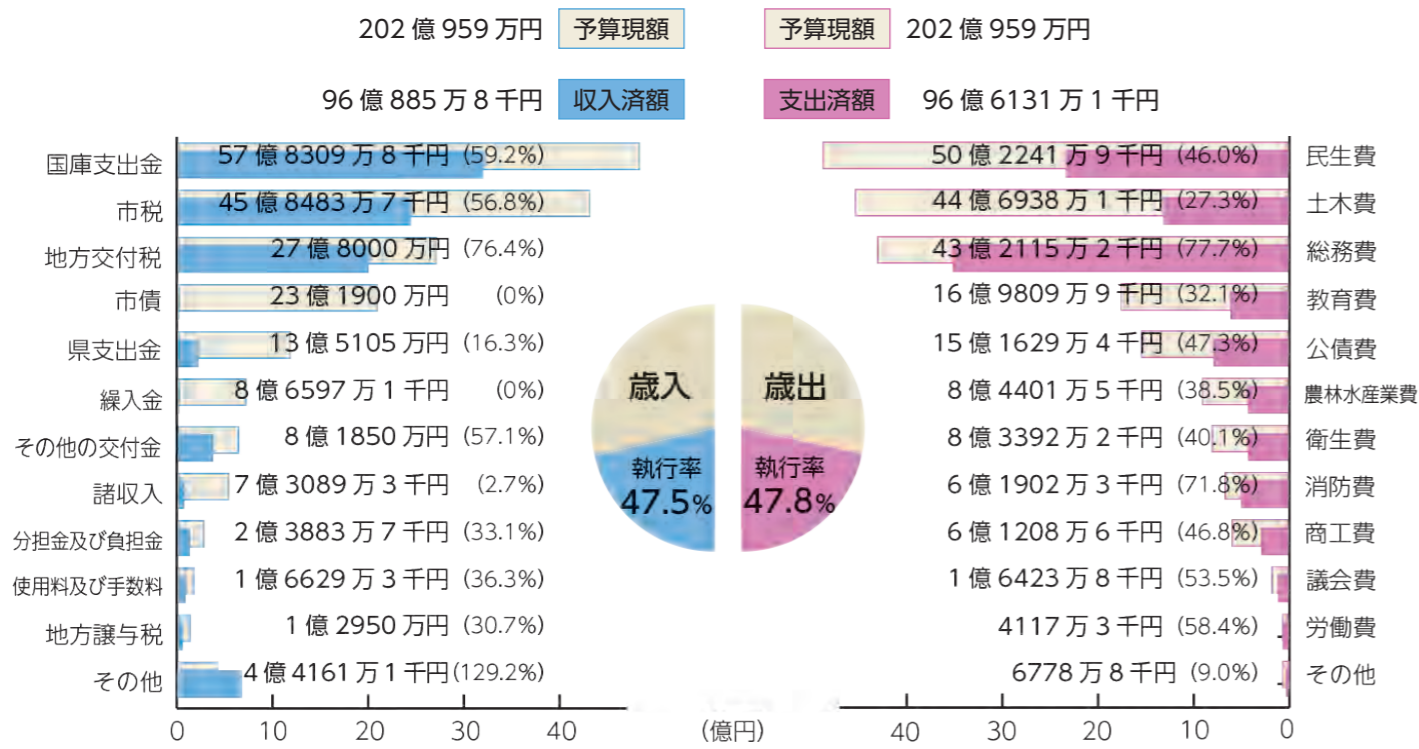


令和2年度上半期の予算執行状況をお知らせします

一般会計歳入歳出予算執行状況 (令和2年9月末現在)

グラフの数値は予算現額、()内は執行率です。



* 予算現額には令和元年度からの繰り越し分を含んでいます。

歳出を目的別で見た決算額と市民1人当たりの決算額

* ()内は1人当たりの決算額。令和2年3月31日現在の住民基本台帳人口(2万7902人)で計算しています。

民生費 46億6846万2千円 (16万7316円) 認定子ども園運営、障害者・高齢者福祉など	土木費 18億5758万3千円 (6万6575円) 道路、橋、公園、市営住宅の整備や維持管理など	公債費 15億2747万9千円 (5万4744円) 市債(借金)の返済
農林水産業費 14億2300万1千円 (5万1000円) 農林水産業の振興や農道、排水施設の整備など	教育費 13億7889万9千円 (4万9419円) 学校、公民館、体育施設の整備や維持管理など	総務費 13億1225万2千円 (4万7031円) 戸籍や住民票の管理、防犯対策、財産管理など
衛生費 7億4547万8千円 (2万6718円) ごみ処理、予防接種、妊婦・乳児健診など	消防費 6億6784万3千円 (2万3935円) 消防施設や災害対策など	商工費 6億63万8千円 (2万1527円) 企業誘致、商工業の振興、観光推進など
議会費 1億6254万3千円 (5825円) 議会の運営	労働費 5230万5千円 (1875円) 雇用対策、市民への生活資金融資など	その他 3億6315万6千円 (1万3016円) 基金(貯金)への積立金や災害復旧費など

目的別で見ると、民生費が全体の約3分の1を占めています。これは認定子ども園運営や児童手当、医療・介護保険、生活保護など福祉事業の比重が大きいためです。

歳出決算額(目的別)
 147億5963万9千円
 市民1人当たりの決算総額
52万8981円



郷土歴史資料館 だより

本荘小学校東善寺分校の建物写真を探しています

現在開催中の「新収藏品展 平成30年度～令和2年度」において、昭和41年に廃校となった、本荘小学校東善寺分校で実際に使われていた石製1点、土製4点の瓦を全期間展示しています。

これらは、いずれも設置されていた建物や場所は不明であるため東善寺分校の建物写真など、当時の様子が分かる資料をお持ちの方は、ぜひ資料館まで情報をお寄せください。

と き 「新収藏品展 平成30年度～令和2年度」
 令和2年10月27日(火)～令和3年5月9日(日)
 ※本展は3期構成になっており、それぞれの会期で一部展示入れ替えを行います。
 前期 10月27日(火)～12月27日(日)
 中期 令和3年1月5日(火)～2月28日(日)
 後期 令和3年3月2日(火)～5月9日(日)



▲本荘小学校東善寺分校の瓦

第32回 市指定文化財 大鳥神社の大銀杏

金津地区下八日区にある大鳥神社は、天長2(825)年に勧請されたと伝えられ、日本武尊が祀られています。この大鳥神社の境内には、2本の銀杏の大木が根付き、紅葉の時期に訪れる人の目を楽しませています。特に、現在も周囲に広く枝を張っている社前の株は、根廻り6.5m、高さ35m以上あります。これらの銀杏は雄花だけを付ける雄株で、神社の創建時に植えられたとも言われていますが、正確な樹齢は不明です。

また、市内を貫く竹田川は、現在大鳥神社の100mほど南を流れていますが、かつてこの銀杏に舳網を繋いで舟を係留していたという言い伝えも残っています。

このように、古い伝承を持った貴重な樹木であることから、昭和49年に旧金津町の指定文化財(天然記念物)となりました。



▲色付いた大銀杏

あわら市の健全化判断比率と資金不足比率

区分	健全化判断比率		R1
	早期健全化基準	財政再生基準	
実質赤字比率	13.64%	20.00%	(赤字なし)
連結実質赤字比率	18.64%	30.00%	(赤字なし)
実質公債費比率	25.0%	35.0%	7.0%
将来負担比率	350.0%	(基準なし)	46.1%

* 早期健全化基準は、各市町村の財政規模に応じて異なり、表中の基準はあわら市に適用される基準です。

資金不足比率

全ての公営企業会計(水道事業会計・公共下水道事業会計)において、資金不足は発生していません。

令和元年度決算に基づく各指標は次のとおりで、いずれの比率も基準以下となっています。

あわら市は
基準をクリア
 しています